

討論会・シンポジウムの開催

特定のテーマまたは大きなテーマを設定し、荷電膜を中心とした膜技術について多様な観点から探求する討論会やシンポジウムを開いてきた。平成 20 年以降では以下のとおり。

1. 「環境の未来を拓く膜とイオン — 海水、排水、超純水」

平成 20 年 11 月 14 日（金） 東京工業大学 百年記念館

（日本海水学会誌 63 巻 2 号に掲載）

講演：

- (1) 「荷電膜の基礎と展望」 (東京工業大学) 谷岡 明彦
- (2) 「電子線グラフト重合法による製塩用イオン交換膜の作製」 (千葉大学) 斎藤 恭一
- (3) 「イオン交換不織布を利用する電気再生式脱イオン装置の排水中有価物回収への応用」 (荏原製作所) 中川 創太
- (4) 「EDI システムの高効率化」 (元東大生研) 吉田 章一郎
- (5) 「逆浸透法海水淡水化」 (造水促進センター) 後藤 藤太郎
- (6) 「MF, UF を用いた海水の前処理技術」 (三菱重工) 永井 正彦

2. 「持続可能社会における海水資源としてのリチウムの分離」

「これからの荷電膜を展望する」

平成 23 年 11 月 24 日（木） 東京工業大学 百年記念館

【セッション 1】 持続可能社会における海水資源としてのリチウム

- (1) 「海水溶存資源の回収と有効利用の動向」 (東京農工大学) 滝山 博志
- (2) 「リチウム資源開発の現状（仮題）」
(石油天然ガス・金属鉱物資源機構) 阿部 幸紀
- (3) 「リチウム資源の活用ーリチウム電池（仮題）」 (日産自動車) 秦野 正治

【セッション 2】 これからの荷電膜を展望する

- (1) 「逆電気透析の原理と現状」 (山口大学) 比嘉 充
- (2) 「製塩用次世代 イオン 交換膜 の研究開発」
(塩事業センター 海水総研) 吉川直人
- (3) 「イオン液体含有膜の分離特性とその可能性」
(同支社大学) 松本 道明

3. 「電気透析および膜技術研究会シンポジウム」

「量子ビームで拓く荷電膜の未来ーガンマ線・電子線からイオンビームへの展開ー」

平成 30 年 10 月 29 日（木）

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所

（日本海水学会誌 73 巻 4 号に特集掲載）

基調講演：

「放射線グラフト重合法による高機能イオン交換高分子材料の開発」

（千葉大学大学院工学研究科） 斎藤 恭一

第1部 ガンマ線・電子線による革新的材料：

講演 1 「わが国固有の塩作り「イオン交換膜製塩法」ー次世代イオン交換膜の開発ー」

（（公財）塩事業センター海水総合研究所） 永谷 剛

講演 2 「膜技術と水素社会ー膜分離新 IS プロセス技術の開発ー」

（日本原子力研究開発機構大洗研究所） 稲垣 嘉之

第2部 イオンビームによる新奇材料：

講演 3 「高エネルギー重イオンビームによるナノ構造制御材料の研究」

（量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所） 澤田 真一

講演 4 「イオン飛跡グラフト重合法で作製したモザイク荷電膜」

（山口大学大学院創成科学研究科） 垣花 百合子